

事業再評価

手賀沼流域下水道事業 (手賀沼処理区)

令和7年11月10日

千葉県 県土整備部 都市整備局 下水道課

目次

1. 事業の概要
2. 事業の進捗状況
3. 社会経済情勢等の変化
4. 費用効果分析
5. コスト縮減や代替案立案の可能性
6. 対応方針(案)

【事業箇所図】



1. 事業の概要

項 目		状 況
事業化年度		昭和46年度
工事終了年度		令和31年度
下水排除方式		分流式
全体計画	処理区域面積	12,102ha
	処理人口	657,700人
	処理場	手賀沼終末処理場 (7系列、能力 330,700m ³ /日最大)

1. 事業の概要

関連市	事業化 年 度	処理区域 面積 (ha)	処理人口 (人)
松戸市	S62	419	41,000
柏市	S48	7,045	372,700
流山市	H2	473	21,500
我孫子市	S47	2,334	133,700
鎌ヶ谷市	S57	1,009	56,900
印西市	S49	482	23,900
白井市	S63	340	8,000
計	—	12,102	657,700

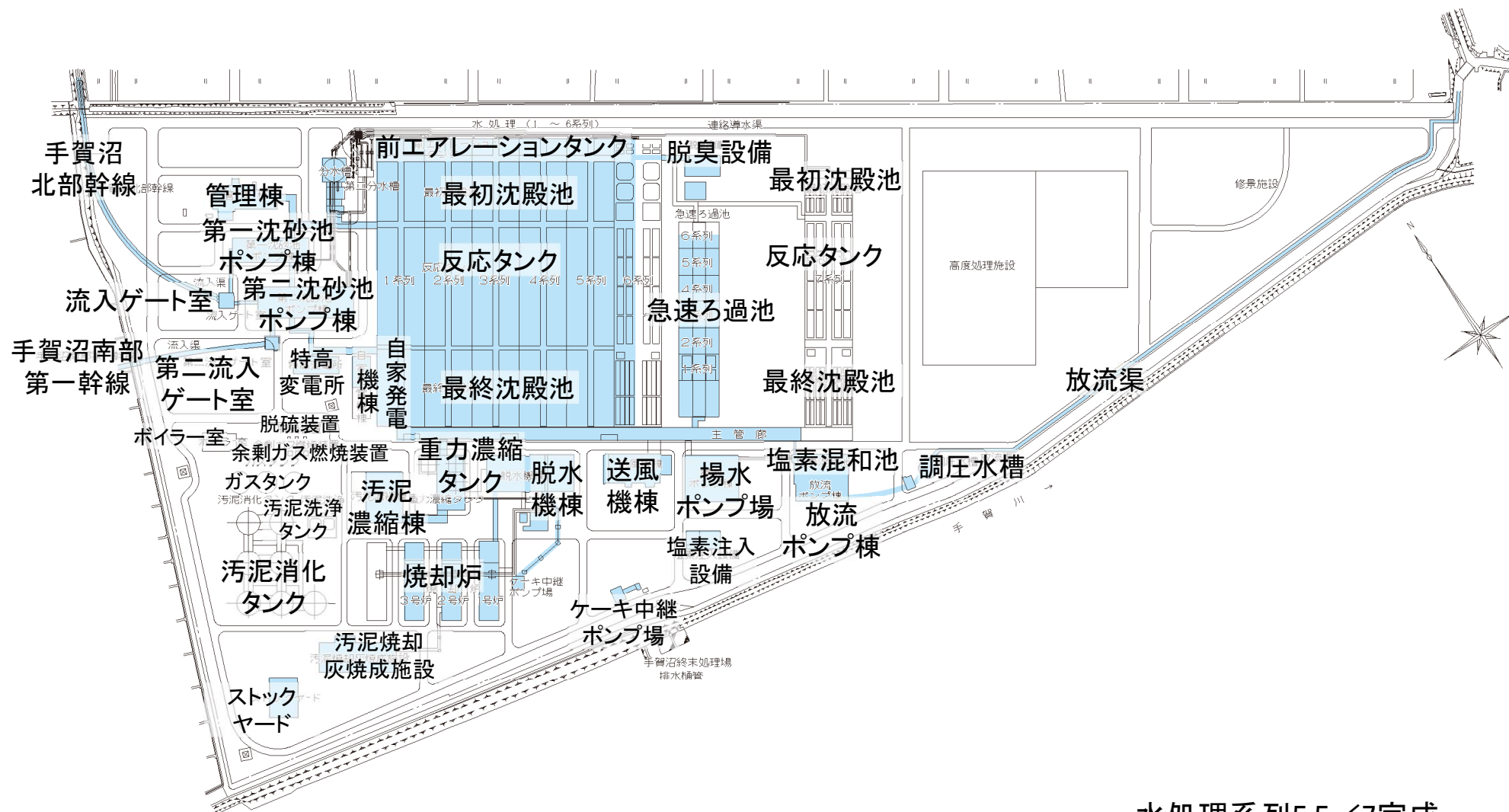
2. 事業の進捗状況

項 目	状 況
事業の 進捗状況	全体計画12,102haに対し、8,124haが整備済みであり、 整備率は67% 全体計画657,700人に対し、633,977人であり、 普及率96%
処理場用地 の取得状況	取得済み
処理施設の 供用状況	全体計画の処理能力330,700m ³ /日に対し、 292,050m ³ /日を整備済み
供用開始区域 の接続状況	接続率は93%
地元情勢 の変化	県議会及び関連市、地元等の理解、協力は得られている。

2. 事業の進捗状況

手賀沼終末処理場配置図

令和7年3月末現在供用部分



水処理系列5.5／7完成

3. 社会経済情勢等の変化

項 目	状 況
社会経済情勢	流山市・柏市ではつくばエクスプレス沿線開発による人口増加がみられるが、事業全体では将来において人口減少等が予測されている。
自然環境条件	水質汚濁に係る新たな環境基準の設定はない。
計画変更の有無 及びその程度	全体計画は将来人口の増減を反映し、平成22年度に見直し、令和5年に一部変更している。 将来計画諸元は前回再評価から変更なし。

4. 費用効果分析

【前回再評価の結果との比較】

		今回再評価(R7)	前回再評価(R2)
評価年度		令和7年度	令和2年度
事業全体	総便益(B)	64,255億円	40,709億円
	総費用(C)	35,270億円	25,571億円
	費用便益比(B/C)	1.8	1.6
残事業	総便益(B)	2,581億円	2,056億円
	総費用(C)	1,133億円	928億円
	費用便益比(B/C)	2.3	2.2

5. コスト縮減や代替案立案の可能性

項 目	状 況
コスト縮減	・既存施設について、包括的民間委託による維持管理コストの縮減や、ストックマネジメントの導入によるライフサイクルコストの縮減を図っている。 ・令和2年度から公営企業会計を適用することにより、中長期的な視点にたった計画的な経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図っている。 ・下水汚泥処理施設の効率的な整備に向けて、汚泥の資源化・エネルギー利用を検討している。 ・広域化・共同化の取り組みにより市町村事業を含めた総コストの縮減を検討している。 ・全県域污水適正化処理構想を策定し適切な計画区域を設定している。
代替案	・浄化槽と下水道の費用比較の結果、下水道が経済的である。また、単独公共下水道と流域下水道では流域下水道が経済的である。

6. 対応方針(案)

継 続

理由

- 1 費用効果分析の結果から、流域下水道事業の投資効果が見込める。
- 2 下水道の整備率の向上とともに生活環境の改善や、公共用水域の水質保全等に寄与している。
- 3 代替案との比較結果から、流域下水道での整備が経済的である。



事業の必要性が高いことから、引き続き継続する。